



TITLE:

# PAのM-recursively Saturated Modelについて(数学基礎論)

AUTHOR(S):

坪井, 明人

---

CITATION:

坪井, 明人. PAのM-recursively Saturated Modelについて(数学基礎論).  
数理解析研究所講究録 1983, 480: 158-177

ISSUE DATE:

1983-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/103375>

RIGHT:

## PAのM-recursively Saturated Modelについて

筑波大学 坪井明人 (Akito Tsuboi)

C. Smorynskiは[4]の中で Peano arithmetic の countable model の考察を行ない、いくつかの同型条件、埋蔵可能条件を与えている。同型の証明は通常、“back and forth argument”を用いるが、このためにはある種の“saturation”をmodelに仮定する必要がある。実際[4]に於ても“recursive saturation”という概念を用いている。この“recursive saturation”は“ $\aleph_1$ -saturation”よりも明らかに弱い条件である。例えば、Peano arithmetic では countable な  $\aleph_1$ -saturated model は存在しないが、recursively saturated model の存在は簡単に示される。

本稿に於ては、“recursive saturation”の一般化として“M-recursively saturation” (Mは通常、structure.) という概念を導入し、M上同型、M上埋蔵可能となる条件を与える。

以下に於て、PAとは countable language  $L$  によって構成された 1-st order Peano arithmetic で全ての formula に対する

inductionを含むものとする。  $M, N, N_i (i \in \omega)$  等は PA の countable model を表わし、通常  $M$  は  $N, N_i (i \in \omega)$  等の submodel とする。また、structure と structure の universe は常に同一視する。したがって  $a_0, \dots, a_n \in M$  とは  $a_0 \in |M| \& \dots \& a_n \in |M|$  の略記の事である。

定義 1.  $M \subseteq N$  に対して、 $N$  が  $M$ -recursively saturated であるとは、 $|HF_M|$  上  $\Delta_1$  である任意の type  $\tau$  が  $N$  で realize されることである。(ここでもちろん  $M$  の元を parameter として含む formula は  $|HF_M|$  の元で coding されている。)

定義 2.  $M \subseteq N$  に対して、 $N$  が  $M^S$ -recursively saturated であるとは、 $|HF_M|$  上  $\Delta_1$  である任意の short type  $\tau$  (" $x < a$ "  $\in \tau$  となっている type) が realize されることである。

定義 3.  $M \subseteq N$  に対して、

$$Th_M(N) = \{ \varphi(c_{a_1} \dots c_{a_n}) : a_1 \dots a_n \in M, N \models \varphi[a_1 \dots a_n] \},$$

$$Th_M^{\Delta_0}(N) = \{ \varphi(c_{a_1} \dots c_{a_n}) : \varphi \text{ は quantifier bounded, } a_1 \dots a_n \in M, N \models \varphi[a_1 \dots a_n] \},$$

$$SS_M^{\Delta_0}(N) = \{ X \cap M : X \text{ は } N \text{ で parameter を持った quantifier bounded formula によって definable な } N \text{ の subset } \}.$$

定義 4.  $A \subseteq N$  に対して、

$Df(N, A) = A$  からの parameter を用いて  $N$  で definable な  $N$  の element の全体。

以上の概念、表記を用いると定理は次の様に表現される。

定理 1.  $N_1, N_2$  を  $M$ -recursively saturated model とし、 $Th_M(N_1) = Th_M(N_2)$  かつ  $SS_M^{\Delta_0}(N_1) = SS_M^{\Delta_0}(N_2)$  とする。このとき、 $N_1$  と  $N_2$  は  $M$  上同型となる。(すなわち  $\exists f: N_1 \xrightarrow{\cong} N_2$  s.t.  $f \upharpoonright M = id_M$ .)

定理 2.  $N_1, N_2$  を  $M$  の cofinal extension ( $M$  のどの元よりも大きい元は付け加わっていない extension) とし、ともに  $M^S$ -recursively saturated とする。さらに  $Th_M^{\Delta_0}(N_1) = Th_M^{\Delta_0}(N_2)$  かつ  $SS_M^{\Delta_0}(N_1) = SS_M^{\Delta_0}(N_2)$  が成り立てば、 $N_1$  と  $N_2$  は  $M$  上同型となる。

定理 3.  $N_1, N_2$  を  $M$ -recursively saturated model とし、 $Th_M(N_1) = Th_M(N_2)$  かつ  $SS_M^{\Delta_0}(N_1) = SS_M^{\Delta_0}(N_2)$  とする。さらに  $A$  を  $N_2$  の definable な subset で  $Df(N_2, M) \cap A = \emptyset$  を満すものとする。このとき  $\exists f: N_1 \xrightarrow{\cong} N_2$  s.t.  $f \upharpoonright M = id_M$  &  $ran(f) \cap A = \emptyset$  となる。

定理 4.  $N \in M$ -recursively saturated model とする。このとき次の 2 条件は同値である。

- i)  $N$  は  $M$  の elementary extension である,
- ii) 各  $b \in N$  ( $b > M$ ) に対して  $ran(f) < b$ ,  $f \upharpoonright M = id_M$  となる elementary embedding  $f: N \xrightarrow{\cong} N$  が存在する。

## 第 1 章：準備

まづ  $IHF_M$  の導入及び  $M$ -recursiveness,  $M$ -recursive saturation 等の概念を正確に定義しよう。

定義 1.1  $A$  を set とするとき.

$$HF_A(0) = \emptyset,$$

$$HF_A(n+1) = \mathcal{P}_{<\omega}(HF_A(n) \cup A) \quad (\mathcal{P}_{<\omega}(B): B \text{ の finite subset の全体.}),$$

$$HF_A = \bigcup_{n \in \omega} HF_A(n).$$

とする.  $A = \emptyset$  のときは, 単に  $HF$  とかく.  $M$  が structure のときは,  $IHF_M$  は  $\langle M; HF_M, \epsilon \rangle = \langle M \cup HF_M; M, HF_M, \epsilon \rangle$  なる structure を表わすものとする. さらに  $IHF = \langle HF, \epsilon \rangle$  とする.

定義 1.2  $L \subseteq HF$  を finite language とし,  $M$  を  $L$ -structure とする. このとき  $L(M)$  は  $L$  に各  $a \in M$  に対応する constant symbol  $c_a = \langle a, \emptyset \rangle \in HF_M$  を付加して出来た language である

定義 1.3  $A \subseteq IHF_M$  が  $IHF_M$  の  $M$ -recursive subset であるとは  $A$  が  $IHF_M$  上  $\Delta_1$  であることである. すなわち適当な set theory の  $\Delta_1$ -formula  $\Psi$  に対して.

$$a \in A \iff IHF_M \models \Psi(a, \bar{b})$$

となることとする.

$L(M)^*$  を  $L(M)$  から構成される formula の全体とすれば, 明らかに,  $L(M)^*$  は  $IHF_M$  の  $M$ -recursive subset である. 実際  $L(M)$  は

$\exists y \in TC(x) [P^M(y) \wedge x = \langle y, \phi \rangle]$  で表現されるので、後は [I] の III と同様。

定義 1.4  $M \subseteq N, \bar{b} \in N, \tau(x, \bar{y}) \in L(M)^*$  とするとき、 $\tau(x, \bar{b})$  が  $M$ -recursive type over  $N$  であるとは、

i)  $\tau(x, \bar{y})$  は  $M$ -recursive,

ii)  $\tau(x, \bar{b})$  は finitely satisfiable over  $N$

となることとする。また全ての  $M$ -recursive type over  $N$  が  $N$  で realize されるとき、 $N$  は  $M$ -recursively saturated であるという。

定理 1.5  $M \subseteq N$  に対して  $N$  の elementary extension  $N^*$  で  $M$ -recursively saturated となるものが存在する。

⊙ model の列  $\{N_i\}_{i < \omega}$  を次の条件

i)  $N < N_i < N_j$  ( $i < j$ )

ii)  $\tau(x, \bar{b})$  が  $N_i$  上の  $M$ -recursive type ならば  $\tau$  は  $N_{i+1}$  で realize される。

を満たす様に構成する。  $N_0 = N$  とする。  $N_i$  まで構成されたとして  $N_{i+1}$  を作る。

$$\Gamma \equiv Th_{N_i}(N_i) \cup \bigcup \{ \tau_\alpha(c_\alpha, \bar{c}_\alpha) \mid \tau_\alpha(x, \bar{b}) \text{ は } M\text{-recursive type} \}$$

とすれば compactness より  $\Gamma$  は model を持つ。これを  $M_{i+1}$  とすればよい。最後に  $N^* = \bigcup_{i < \omega} N_i$  とすれば、これが求める model。■

以上の議論は実は、PAのcountable modelに限定しなくても良かった。以下でPAに関する議論をしよう。

定義 1.6  $M \subseteq N$  に対して.

- i)  $N$  は  $M$  の end extension  $(M \subseteq_e N) \stackrel{\Delta}{\iff} \forall b \in N [\exists a \in M (b < a) \Rightarrow b \in M]$ . 拡大が elementary のときは  $M <_e N$  とかく.
- ii)  $N$  は  $M$  の cofinal extension  $(M \subseteq_c N) \stackrel{\Delta}{\iff} \forall b \in N \exists a \in M [b < a]$ . 拡大が elementary のときは  $M <_c N$  とかく.

定義 1.7  $M \subseteq N$  に対して.

- i)  $N$  は  $M$ -short  $\stackrel{\Delta}{\iff} \exists b \in N \forall d \in N \exists e \in Df(N, M \cup \{b\}) [d < e]$ .
- ii) type  $\tau$  が short  $\stackrel{\Delta}{\iff} \exists b \in N ["x < c_b" \in \tau]$
- iii)  $N$  は  $M^s$ -recursively saturated  $\iff N$  は全ての short  $M$ -recursive type を realize する.

定義 1.8 function  $\tau_{*}^M: L(M)^* \rightarrow M$  が  $L(M)^*$  の coding function

であるとは、次の2条件を満たすときである:

- i)  $\tau_{*}^M$  は 1 対 1、かつ  $M$ -recursive. (graph が  $M$ -recursive)
- ii)  $\varphi_0$  が  $\varphi$  の subformula ならば  $\tau_{\varphi_0}^M < \tau_{\varphi}^M$ .

Coding function は存在する。またある意味で uniform にと

ることができる。実際、 $\ulcorner \varphi \wedge \psi \urcorner^M = \ulcorner \langle \wedge, \langle \varphi, \psi \rangle \rangle \urcorner^M = \langle \ulcorner \wedge \urcorner^M, \langle \ulcorner \varphi \urcorner^M, \ulcorner \psi \urcorner^M \rangle \rangle$  等で定義すればよい。ただし最初の  $\langle, \rangle$  は set theory の pairing function、すなわち  $\langle x, y \rangle = \{\{x\}, \{x, y\}\}$  であり後の  $\langle, \rangle$  は PA における primitive recursive な pairing function である。後者の  $\langle, \rangle$  が  $\text{IHF}_M$  に於て  $\Delta_1$  で表現できることは、Matjasevic の結果によれば良い。以上の考察のもとに、 $\ulcorner * \urcorner^M$  といちいちかかずに単に  $\ulcorner * \urcorner$  とかく。(  $N_1 \subseteq N_2$  のとき  $\ulcorner * \urcorner^{M_1} \subseteq \ulcorner * \urcorner^{M_2}$  とできるから。)

定義 1.9  $M \subseteq N, A \subseteq N, \Gamma \subseteq L(M)^*$  に対して、

$SS_M^\Gamma(N, A) = \{X \cap M : X \text{ は } A \text{ からの parameter を持った } \Gamma\text{-formula によって } N \text{ で definable な } N \text{ の subset}\}$ ,

$\Gamma = L(M)^*, A = N$  のときはそれぞれいちいちかかない。また  $\Upsilon \subseteq L(M)^*$  に対して、

$$\Upsilon \in^* SS_M(N) \Leftrightarrow \textcircled{3} \Upsilon^* \in SS_M(N) [\Upsilon = \{\varphi \in L(M)^* : \ulcorner \varphi \urcorner \in \Upsilon^*\}]$$

とする。

命題 1.10  $\textcircled{3} b \in N [b > M] \Rightarrow SS_M(N) = SS_M^{\Delta_0}(N)$ .

$\textcircled{3} SS_M^{\Delta_0}(N) \subseteq SS_M(N)$  は定義から明らかだから逆を示す。

$X \in SS_M(N)$  とし、

$$a \in X \Leftrightarrow N \models \varphi[a, \bar{b}] \text{ for } \textcircled{3} a \in M$$

とする。  $N \models \text{PA}$  であるから、



$$N \models \forall y \exists z \forall w < y [w \in z \leftrightarrow \varphi(w, \bar{b})]$$

となる. ここで, " $w \in z$ " は  $z$  の binary expansion の中に  $2^w$  があらわれることを示す formula. したがって適当な  $d \in \mathbb{N}$  によって,

$$\begin{aligned} & "N \models \varphi[a, \bar{b}] \Leftrightarrow N \models a \in d" \text{ for } \textcircled{\vee} a < b \\ \therefore & "N \models \varphi[a, \bar{b}] \Leftrightarrow N \models \underbrace{a \in d}_{\Delta_0}" \text{ for } \textcircled{\vee} a \in M \quad \square \end{aligned}$$

定義 1.11  $M \subseteq N, \Gamma \subseteq L(M)^*$  に対して,

- i)  $Th_M(N) = \{ \varphi \in L(M)^* : N \models \varphi \}$
- ii)  $Th_M^\Gamma(N) = \{ \varphi(c_{a_1}, \dots, c_{a_n}) : a_1, \dots, a_n \in M, \varphi \in \Gamma, N \models \varphi[a_1, \dots, a_n] \}$

定義 1.12  $\Gamma \subseteq L(M)^*$  に対して,  $Tr_\Gamma(x, y)$  が  $M$  における  $\Gamma$  の truth definition であるとは,

" $M \models Tr_\Gamma[\ulcorner \varphi \urcorner, a] \leftrightarrow \varphi[(a)_1, \dots, (a)_n]$ " for  $\textcircled{\vee} \varphi \in \Gamma, \textcircled{\vee} a \in M$ .  
が成り立つこととする. ここで  $(x)_y$  は  $x$  の binary expansion の  $y$  番目の index をあらわす.

$\Delta_0(M)$  は  $L(M)^*$  の subset で bounded quantifier のみを持つ formula 全体.  $\Sigma_n(M)$  は  $L(M)^*$  の subset で  $\exists x_1, \forall x_2, \dots, Q_n x_n \varphi$  ( $\varphi$  は  $\Delta_0(M)$ -formula) の形の formula 全体とする. このとき、明らかに  $\Sigma_n(M)$  に対しては Truth definition が存在する.

定義 1.13  $M \subseteq N_1, N_2$  に対して

i) partial function  $f: N_1 \rightarrow N_2$  が partial elementary embedding であるとは " $N_1 \models \varphi[\bar{a}] \Rightarrow N_2 \models \varphi[f\bar{a}]$ " for  $\varphi, \bar{a} \in \text{dom}(f)$  が成り立つことである.

ii)  $\text{Emb}(N_1, N_2; M) = \{f: N_1 \rightarrow N_2 \mid f \text{ は elementary embedding で } f \upharpoonright M = \text{id}_M\}$ ,  $P\text{-Emb}(N_1, N_2; M) = \{f: N_1 \rightarrow N_2 \mid f \text{ は partial elementary embedding で } f \upharpoonright M = \text{id}_M, \text{ さらに } \text{dom}(f) - M \text{ は有限個}\}$   
 $\text{Isom}(N_1, N_2; M) = \{f: N_1 \rightarrow N_2 \mid f \text{ は isomorphism で } f \upharpoonright M = \text{id}_M\}$ .

次の二つの定理はともに Splitting Theorem と呼ばれている.

定理 1.14 (Elementary Splitting Theorem: Folklore?)

$$M < N \Rightarrow \textcircled{1} N^* \text{ s.t. } M <_c N^* <_e N.$$

$\textcircled{2} N^* = \{a \in N \mid \textcircled{1} b \in M \text{ s.t. } a < b\}$  とすれば,  $M \subseteq_c N^* \subseteq_e N$  は明らか.  $a \in N^*$  として  $N \models \exists x \varphi(x, a)$  とする.  $b \in M$  を  $a < b$  なるもの とすれば

$$N \models \forall y < b \exists z [(\exists x \varphi(x, y) \rightarrow \varphi(z, y)) \wedge (\neg \exists x \varphi(x, y) \rightarrow z = 0)]$$

$$\therefore M \models \forall y < b \exists z [(\exists x \varphi(x, y) \rightarrow \varphi(z, y)) \wedge (\neg \exists x \varphi(x, y) \rightarrow z = 0)]$$

$$\therefore M \models \forall y < b \exists z < d [(\exists x \varphi(x, y) \rightarrow \varphi(z, y)) \wedge (\neg \exists x \varphi(x, y) \rightarrow z = 0)]$$

$$\therefore N \models \exists z < d \varphi(z, a) \quad (\text{上の式の } y \text{ を } a \text{ とする.})$$

$$\therefore N \models \varphi(e, a) \text{ for some } e \in N^* \quad \square$$

定理 1.15 (General Splitting Theorem: Gaifman)

$N$  が  $M$  の  $\Delta_0$ -elementary extension のとき.

$$\textcircled{3} N^* \text{ s.t. } M <_e N^* \subseteq_e N.$$

上の定理の証明は [ ] を参照されたい. 第2象で、General Splitting Theorem に関連した定理を述べる. 尚、最近 General Splitting Theorem を証明論的に解析し、一般化した結果を本橋信義氏が得ている.

第2象: 同型定理

補題 2.1  $N$  が  $M$ -recursively saturated のとき、 $N$  は全ての type  $\tau(x, \bar{b})$  ( $\tau(x, \bar{y}) \in {}^*SS_M(N)$ ) を realize する.

補題 2.2  $N$  が  $M^S$ -recursively saturated のとき、 $N$  は全ての short type  $\tau(x, \bar{b})$  ( $\tau(x, \bar{y}) \in {}^*SS_M(N)$ ) を realize する.

⊙ 証明はどちらも同様である. 2.2 を示す.  $\tau \in {}^*SS_M(N)$  より、適当な formula  $\chi$  により

$$"\varphi \in \chi \Leftrightarrow N \models \chi(\ulcorner \varphi \urcorner)" \text{ for } \textcircled{4} \varphi \in L(M)^*$$

この  $\chi$  を用いて short type  $\tau_0$  を

$$\tau_0 = \{x < b\} \cup \{\chi(\ulcorner \varphi \urcorner) \rightarrow \varphi(x) : \varphi \in L(M)^*\}$$

("x < b"  $\in \tau$  とする)

で定めれば  $\tau_0$  は  $M$ -recursive. したがって  $\textcircled{3} d$  によって real-

ize される. この  $d$  が同時に  $\tau$  を realize する.  $\square$

定理 2.3  $N_1, N_2$  を  $M$ -recursively saturated model とする. このとき次の 3 条件は同値である

- i)  $\text{Isom}(N_1, N_2; M) \neq \emptyset$ ,
- ii)  $\text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$  かつ  $\text{SS}_M(N_1) = \text{SS}_M(N_2)$ ,
- iii)  $\text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$  かつ  $\text{SS}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{SS}_M^{\Delta_0}(N_2)$ .

ii)  $\Rightarrow$  iii) は命題 1.10 より明らか. iii)  $\Rightarrow$  i) は補題 2.1 を用いて "back and forth argument" により同型写像を構成する. 証明は以下の定理 2. と同様であるから省略する. 尚、定理 2.3 に於て  $M$ -recursively saturated を  $M^S$ -recursively saturated に弱めると同値性はくずれる. 実際、もっと強く ii) 及び iii) が成り立つが同型にならない  $N_1, N_2$  が存在する ( $M$  上同型の条件を除いても.) この様な  $N_1, N_2$  の存在は次のように示される.  
(構成) 与えられた  $M$  に対して  $M$ -recursively saturated elementary extension  $N \succ M$  をとる.

$$\mathcal{X} = \{ \langle \ulcorner F_i \urcorner, \ulcorner G_i \urcorner \rangle : N \models \forall x \exists y \forall z (x < z \rightarrow y (F_i(z) \neq x \wedge G_i(z) \neq x)) \}$$

とすればこれは  $M$ -recursive subset of  $\omega$ . この  $\mathcal{X}$  からさらに

$$\{ \ulcorner \varphi_i \urcorner \}_{i \in \omega}, \{ \ulcorner \psi_i \urcorner \}_{i \in \omega} \text{ を } \vdash \varphi_{i+1} \rightarrow \varphi_i, \vdash \psi_{i+1} \rightarrow \psi_i \text{ で}$$

$$\{ F_i a \mid N \models \varphi_i[a] \} \cap \{ G_i a \mid N \models \psi_i[a] \} = \emptyset,$$

$$N \models \forall x \exists y > x \varphi_i(x) \ \& \ N \models \forall x \exists y > x \psi_i(x).$$

が成り立つものとする。  $\{\varphi_i(x)\}_{i \in \omega}$ ,  $\{\psi_i(x)\}_{i \in \omega}$  は  $M$ -recursive type となり、その realization を  $a, b \in N$  とすれば、

$$N_1 = \{d \in N \mid d \text{ is less than some } e \in Df(N, M \cup \{a\})\}$$

$$N_2 = \{d \in N \mid d \text{ is less than some } e \in Df(N, M \cup \{b\})\}$$

が求めるものである。この2つが  $\exists$ 非同型なることは Theorem 3.9 [ ] を参照されたい。また  $N_1, N_2$  が  $M^S$ -recursively saturated なることは、 $N_i < N$  なることからわかる。

上の  $N_1, N_2$  の存在にもかかわらず次の定理が成り立つ。

定理 2.4  $N_1, N_2$  は  $M^S$ -recursively saturated でともに  $M$  の cofinal extension とする。このとき次の3条件は同値である。

- i)  $\text{Isom}(N_1, N_2; M) \neq \emptyset$ ,
- ii)  $\text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$  か  $\text{SS}_M(N_1) = \text{SS}_M(N_2)$ ,
- iii)  $\text{Th}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{Th}_M^{\Delta_0}(N_2)$  か  $\text{SS}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{SS}_M^{\Delta_0}(N_2)$ .

☺ iii)  $\Rightarrow$  i) のみを示す。  $N_1 - M = \{b_i\}_{i \in \omega}$ ,  $N_2 - M = \{d_i\}_{i \in \omega}$

とし partial isomorphism の列  $\{f_n\}_{n \in \omega}$  を

- a)  $f_n \subseteq f_{n+1}$ ,  $\text{dom}(f_n) \supseteq M \cup \{b_i\}_{i < n}$ ,  $\text{ran}(f_n) \supseteq M \cup \{d_i\}_{i < n}$
- b)  $N_1 \models \varphi[\bar{e}] \Rightarrow N_2 \models \varphi[\bar{f}_n(\bar{e})]$  for  $\textcircled{Q} \varphi \in \Delta_0(M)$ ,  $\bar{e} \in \text{dom}(f_n)$ .

となるようにつくる。

(構成)  $f_0 = \text{id}_M$  とし、 $f_n$  まで構成されたとしよう。  $\bar{b} = \text{dom}(f_n) - M$  とし、

$$\tau(x, \bar{y}) = \{\varphi \in \Delta_0(M) : N_1 \models \varphi(b_n, \bar{b})\}$$

とすれば、 $\tau$  は  $\Delta_0(M)$  の truth definition  $\text{Tr}_0(x, y)$  によって

$$\tau(x, \bar{y}) = \{\varphi \in \Delta_0(M) : N_1 \models \text{Tr}_0[\ulcorner \varphi \urcorner, \langle b_n, \bar{b} \rangle]\}$$

とかけるから  $\tau \in {}^*SS_M^{\Delta_0}(N)$ 。また  $a \in M$  を  $b_n < a$ ,  $\varphi_0 \dots \varphi_p \in \tau$  とすれば

$$\begin{aligned} N_1 &\models \exists x < a \bigwedge_{i \leq p} \varphi_i(x, \bar{b}) \\ \therefore N_2 &\models \exists x < a \bigwedge_{i \leq p} \varphi_i(x, \bar{f}_n(\bar{b})) \end{aligned}$$

これは short type  $\tau(x, \bar{f}_n(\bar{b}))$  が  $N_2$  で finitely satisfiable なことをしめす。この realization の 1 つを  $d^* \in N_2$  とする。上と同様の構成により  $d_n$  に対して  $b^* \in N_1$  をとれば  $f_{n+1} = f_n \cup \{\langle b_n, d^* \rangle\} \cup \{\langle b^*, d_n \rangle\}$  が a), b) を満す。最後に  $f = \bigcup_{n < \omega} f_n$  とすれば、これが求める  $M$  上同型写像となる。■

次にこの同型定理を用いて 1 つの面白い結果を述べる。

定理 2.5  $N_1, N_2$  を  $M$  の cofinal extension とする。このとき

$$\text{Th}_M^{\Delta_0}(N_1) = \text{Th}_M^{\Delta_0}(N_2) \Rightarrow \text{Th}_M(N_1) = \text{Th}_M(N_2)$$

☺ elementary chain construction により  $N_1^*, N_2^*$  を

$$a) \quad N_1 <_c N_1^*, \quad N_2 <_c N_2^*$$

b)  $N_1^*, N_2^*$  はともに  $M^S$ -recursively saturated,

c)  $SS_M^{\Delta_0}(N_1^*) = SS_M^{\Delta_0}(N_2^*)$ .

となるようにつくる. このとき定理 2.4 により,

$$\exists f: N_1^* \rightarrow N_2^* \text{ s.t. } f \vdash M = \bar{c}d_M.$$

しかるにこれは  $Th_M(N_1) = Th_M(N_2)$  を示す.  $\square$

General Splitting Theorem の証明を見ると.

$$M <_{\Delta_0} \mathcal{M}, M \leq_c \mathcal{M} \Rightarrow M < \mathcal{M} \quad (\because \mathcal{M} \models PA)$$

となる. これから特に

$$M \leq_c \mathcal{M}_i, M <_{\Delta_0} \mathcal{M}_i \quad (i=1, 2) \Rightarrow Th_M(\mathcal{M}_1) = Th_M(\mathcal{M}_2)$$

となるが, 上の定理は  $\mathcal{M}_i \models PA$  を仮定に付け加え,  $M <_{\Delta_0} \mathcal{M}_i$  を弱めたことになる.

### 第3象: 埋蔵可能性定理

定理 3.1  $N_1, N_2$  を  $M$ -recursively saturated elementary extension で  $SS_M(N_1) \subseteq SS_M(N_2)$  が成り立つ model とする.  $A \subseteq N_2 - M$  を definable subset とするとき, 各  $f \in P\text{-Emb}(N_1, N_2; M)$  ( $Df(N_2, \text{ran}(f)) \cap A = \emptyset$ ) と各  $b \in N_1$  に対して,  $f^* \geq f$  で

$$f^* \in P\text{-Emb}(N_1, N_2; M),$$

$$\text{dom}(f^*) = \text{dom}(f) \cup \{b\},$$

$$Df(N_2, \text{ran}(f^*)) \cap A = \emptyset.$$

となるものが存在する.

$$\textcircled{\text{D}} \text{ dom}(f) = M \cup \bar{b} \text{ とし、}$$

$$\tau(x, \bar{y}) = \{ \varphi(x, \bar{y}) \in L(M)^* : N_1 \models \varphi[b, \bar{b}] \}$$

とする. 各  $\tau_0 \subset \tau$  に対して

$$N_1 \models \exists x \wedge \tau_0(x, \bar{b})$$

$$\therefore N_2 \models \exists x \wedge \tau_0(x, \bar{f}\bar{b})$$

さらに  $F_1, \dots, F_m$  を  $L(M)$ -formula に対する Skolem function (PA $\tau$  は  $\mu$ -operator が definable だから Skolem function も definable) とする.  $\alpha$  を  $A$  の  $N_2$  での defining formula とする. このとき

$$N_2 \models \exists x (\wedge \neg \alpha(F_i(x, \bar{f}\bar{b})) \wedge \wedge \tau_0(x, \bar{f}\bar{b}))$$

が成り立つ. これは  $\tau(x, \bar{f}\bar{b}) \cup \{ \neg \alpha(F_i(x, \bar{f}\bar{b})) : F_i \text{ は } L(M)\text{-Skolem} \}$  が  $N_2$  で finitely satisfiable を示す. この realization を  $d$  として

$$f^* = f \cup \{ \langle b, d \rangle \}$$

とすればよい.  $\square$

定理 3.2  $N_1, N_2$  を  $M$  の  $M$ -recursively saturated elementary extension とし、 $A \subseteq N_2$  を  $\text{Df}(N_2, M) \cap A = \emptyset$  なる definable set とする. このとき  $f \in \text{Emb}(N_1, N_2; M)$  で  $\text{Df}(N_2, \text{ran}(f)) \cap A = \emptyset$  となるものが存在する.

$$\textcircled{\text{D}} N_2 - M = \{ b_i : i \in \omega \} \text{ とし、 } \{ f_n \}_{n \in \omega} \subseteq \text{P-Emb}(N_1, N_2; M) \text{ を}$$

$$a) \text{ dom}(f_n) = M \cup \{ b_i : i < n, \}$$



$$b) Df(N_2, \text{ran}(f_n)) \cap A = \emptyset$$

となるように帰納的に構成する.  $f_0 = \text{id}_M$  とし,  $f_n$  まで作られたとする. このとき定理 3.1 により,  $f_{n+1} \in P\text{-Emb}(N_1, N_2; M)$  で  $\text{dom}(f_{n+1}) = \text{dom}(f_n) \cup \{b_n\}$  かつ  $Df(N_2, \text{ran}(f_{n+1})) \cap A = \emptyset$  なるものが存在する. 最後に  $f = \bigcup_{n < \omega} f_n$  とすればよい.  $\square$

定理 3.3  $N \in M \triangleleft_{\Delta_0} N$  で  $M$ -recursively saturated とする. このとき次の 2 条件は同値である.

$$i) M < N,$$

$$ii) \textcircled{+} b > M \textcircled{+} f \in \text{Emb}(N, N; M) \text{ s.t. } \text{ran}(f) < b.$$

$\textcircled{+}$  定理 3.2 は  $i) \Rightarrow ii)$  をしめす.  $ii) \Rightarrow i)$  をしめそう.  $N$  が  $M$  の elementary extension でなかったと仮定する. このとき  $b \in Df(N, M)$  かつ  $b > M$  なる element の存在を言えばよい. 実際  $\text{ran}(f) < b$  とすることは不可能. したがってこのような  $b$  が存在しないと仮定して矛盾を出す.

$$M <_{\Delta_0} N \text{ かつ } Df(N, M) < N$$

が成り立つから

$$M <_{\Delta_0} Df(N, M) \text{ かつ } M \subseteq_c Df(N, M)$$

P-14 の remark から  $M < Df(N, M) < N$  を得る. これは矛盾である.  $\square$

上の定理は次の D. Lipschitz の定理とよく似ている.

定理 3.4 (D. Lipshitz)  $L = \{0, 1, +, \cdot\}$  とし  $N \models L$  で formulate された PA の model とする. このとき次の 2 条件は同値である.

i)  $N$  は Diophantine Correct. (すなわち、 $\omega$  で解ける Diophantine equation と  $M$  でのそれとが一致する.),

ii)  $\forall b > \omega \exists N' \subseteq_e N$  s.t.  $N' \cong N$ .

⊙ 証明は Matijasevic の結果を使えば簡単である. ▢

定理 3.4 では model の saturation を仮定していないが、これは、 $\Delta_0$ -formula に対する truth definition があるので、Overspill Lemma を使えば saturation ( $\Delta_0$ -saturation) が示されるためである.

補題 3.5  $N \models M$ -recursively saturated とし、 $b, d \in N$  を  $M < b < d$  か  $\exists Df(N, M^U \cup \bar{e}) \cap [b, d] = \emptyset$  なる 2 つの元とする. このとき、 $Df(N, M^U \cup \bar{e} \cup \{e\}) \cap [b, d] = \emptyset$  なる  $e$  を任意に大きくとることができる.

⊙ 与えられた  $e^* \in N$  に対して、

$$\tau(x) = \{ \neg(b < F(x, \bar{e}) < d) \mid F \text{ は } L(M)\text{-Skolem} \} \\ \cup \{ x > e^* \}$$

$\tau(x)$  が  $N$  上の type であることを示せば十分. 実際  $\tau$  の realization  $e$  が求まるものとなる. そこで  $\tau$  が finitely satisfiable でないと仮定する. このとき, 適当に  $L(M)$ -Skolem function  $F_1, \dots, F_n$  をとれば,

$$N \models \forall x > e^* \left( \bigvee_{k=1}^n (b < F_k(x, \bar{e}) < d) \right) \quad \text{----- (1)}$$

ここで,

$$\begin{aligned} \tau^*(u, v) = & \{ a < u < v < b : a \in M \} \\ & \cup \{ \neg(u < F(\bar{e}) < v) : F \text{ は } L(M)\text{-Skolem} \} \\ & \cup \{ \exists y \forall x > y \left( \bigvee_{k=1}^n (u < F_k(x, \bar{e}) < v) \right) \} \end{aligned}$$

とすると,

(主張)  $\tau^*$  は  $M$ -recursive type である.

与えられた  $a \in M$ ,  $F^1(\bar{e}), F^2(\bar{e}), \dots, F^m(\bar{e})$  に対して (1) と仮定から,

$$\begin{aligned} N \models \exists u > a \exists v > a [ \exists y \forall x > y \left( \bigvee_{k=1}^n (u < F_k(x, \bar{e}) < v) \right) \\ \wedge \neg(u < F(\bar{e}) < v) ] \end{aligned}$$

が成り立つ.  $v$  のうち最小のもの (これは definable) をとれば  $d$  以下となるが,  $Df(N_2, M \cup \bar{e}) \cap [b, d] = \emptyset$  より  $b$  未満となる. これは  $\tau^*$  が finitely satisfiable をしめす. (主張終)

$\tau^*$  の realization を  $\langle b_i, d_i \rangle$  とする. 上の construction をつづければ列  $\{ \langle b_i, d_i \rangle \}_{i \in \omega}$  を

$$a) \quad M < b_{i+1} < d_{i+1} < b_i,$$

$$b) \quad N \models \exists y \forall x > y \left( \bigvee_{k=1}^m (b_k < F_k(x, \bar{e}) < d_k) \right)$$

となるようにつくることのできる. しかるにこれは明らかに矛盾である. この矛盾は  $T$  が finitely satisfiable をしめす.  $\square$

定理 3.6  $N$  を  $M$ -recursively saturated とし.  $M < b < d$  とする. もし  $Df(N, M) \cap [b, d] = \emptyset$  ならば, 次の 2 条件を満たす  $f \in \text{Emb}(N, N; M)$  が存在する:

$$i) \text{ran}(f) \cap [b, d] = \emptyset$$

$$ii) \text{ran}(f) \text{ is cofinal with } N$$

⊙  $N - M = \{b_i\}_{i \in \omega}$  とし,  $f_n \in P\text{-Emb}(N, N; M)$  を

$$a) \quad f_n \subseteq f_{n+1}, \quad \text{dom}(f_{2n}) \supseteq M \cup \{b_i\}_{i < n},$$

$$b) \quad Df(N, \text{ran}(f_n)) \cap [b, d] = \emptyset,$$

$$c) \quad \textcircled{3} \quad e \in \text{ran}(f_{2n+1}) \text{ s.t. } e > b_n.$$

となるように構成する. 偶数段階は今までと同様、奇数段階は次のようにする. 上の補題から、 $e > b_n$  で  $Df(N, \text{ran}(f_{2n}) \cup \{e\}) \cap [b, d] = \emptyset$  となる  $e$  が存在する. この  $e$  の逆像は今までと同様に決まる. これを  $e^*$  とすれば  $f_{2n+1} = f_{2n} \cup \{ \langle e^*, e \rangle \}$ . 最後に  $f = \bigcup_{n \in \omega} f_n$  とすればよい.  $\square$

### [Reference]

[1] J. Barwise: Admissible sets and structures, Springer-

- Verlag, Berlin (1975)

- [2] H. Friedman : Countable models of set theories,  
Cambridge Summer School in Mathematical Logic, Lecture  
Notes in Mathematics, Springer-Verlag, Berlin (1972)  
539-537.
- [3] D. Lipshitz : Diophantine correct models of arithmetic,  
Proc. A.M.S vol 73 (1979), 107-108.
- [4] C. Smorynski : Recursively saturated nonstandard  
models of arithmetic, J.S.L. vol 46 (1981), 259-  
286.
- [5] A. Tsuboi : On M-recursively saturated models of  
arithmetic, Tsukuba Journal vol 14 (1982), 245-  
268.